



▲作業の様子

着くまでにはさまざまな失敗を繰り返してきたと可知は語る。不良品を大量に生み出してしまったり、設備が故障したり、青ざめるようなトラブルばかりだったが、そんな時に決まって胸に思い浮かぶ言葉があった。かつて上司に叩き込まれた、「大事なものは同じ失敗を繰り返さないこと」という教えである。起こってしまったことは仕方がない。失敗の原因を徹底的に調べて一つひとつ取り除き、同じ失敗を起こさないようにすることが大切なのだ。

「今、同じ教えをベトナムのスタッフにも伝えようとしています。原因の追求を怠らなければ、やがて成功につながるはずです」。

言葉の壁に直面

ベトナムに赴任して、最初にぶつかったのが言葉の壁だ。ベトナム語は世界でも屈指の習得が難しいとされる言語で、特に日本人は発音に苦労するという。ご多分にもれず、可もなく早々に音を上げてしまったが、簡単な英語でコミュニケーションをとろうとしても、日常生活では通じないことが多い。スマートフォンの翻訳ソフトやジェスチャーを駆使してなんとかその場を凌ぐか、意思疎通を諦めるかの二つに一つだった。

その一方で感心したのは、ベトナム工場の現地スタッフの語学力の高さだ。20人以上が多言語を話し、中には3か国語以上を操るスタッフもいた。日本語を勉強してきたスタッフも多く、どの部署でも簡単な日本語は通じる。ただ、仕事上の専門的な話になると、言葉の真意がなかなか伝わらない。ベトナムは昔から農業従事者が多く、工業系の仕事が増えたのはごく最近のこと。そのため、ものづくりに関する知識が根本的に不足している。理解してもらおうと何度もしつこく同じ話をしているうちに、お互いに疲れてしまい、時に言い合いになることもしばしばだった。しかし、最初は伝わらなくても、熱意を込めて真剣に話していれば、いつかは伝わるものだと思えるようになった。

カルチャーショックの宝庫

「意図が伝わらずに苦労しているのはお互い様。ぶつかり合いながらも理解を深め、成長していくのだと思います。今はまだ、ベトナム工場はものづくりの一年生。でも近い将来、日本のものづくりを越える日が来る」と信じています」。

可知 永吾

執行役員 開発技術部 部長
兼 CHUBUTSU VIETNAM 社長

株 株式会社中央物産の執行役員、開発技術部の部長を務める、CHUBUTSU VIETNAMの社長も兼務する可知永吾。急激な経済成長を遂げるベトナムで、文化の違いを乗り越えながら日々奮闘を続ける可知に、海外勤務ならではの苦労や今後の展望を語ってもらった。

ベトナム工場の誕生

CHUBUTSU VIETNAM CO., LTD (通称ベトナム工場)は2018年11月23日に竣工。中央物産の製造技術をベトナムに移管した、最新の設備を有する工場の誕生だった。翌年3月から本格的に稼働を開始し、製造品は断熱被覆銅管、化成品インシュレーション、防振ゴムなど多岐にわたる。工場のライセンスはベトナム国外輸出を前提とした輸出加工企業(EPE)で、製造品の輸出先は主にヨーロッパ、オーストラリア、日本などの企業や商社だ。このほか、電動アシスト自転車用モーターの組立ラインも保有し、モーターはベトナム国内や台湾へと出荷されている。実稼働から1年あまりが経過して生産は安定してきたが、ここに辿り



▲会社外観(夜)

指示が出たかと思えば、外国人駐在者に対する高額税金の発生など、驚く出来事は枚挙にいとまがない。ビジネス面での違いに加え、ベトナムでの暮らしはカルチャーショックの連続だった。例えば食文化。全体的にあっさりした味付けが多いベトナム料理に、パクチーが加わると一気にベトナムらしさが増す。だが、この風味に可知はどうしても慣れることができない。気候も想像をはるかに超えていた。毎日厳しい暑さが続き、40度近くまで達することも。



▲勉強会の様子

ぎ、ベトナム工場は減産を余儀なくされた。それに合わせて3シフト24時間体制を日勤体制に変更。やむなく余剰人員の退職勧告を決議することになった。

「優秀なスタッフを手放し、辞めたくないという仲間に別れを告げなければならず、身を切られるような思いでした。スタッフの家族を思うと心が痛みます」。

経費削減体制がとられた結果、約180人のスタッフを約140人に

さらに明るい話題がある。ベトナム工場で開発した断熱被覆材チューブの量産が、7月から開始されたのだ。すでにチェコの顧客に出荷が決まり、今後はタイや日本向けの出荷も視野に入れている。また、防振ゴムについてもプシル第二工場の設置が終わり、8月から量産が可能となった。新商品の販売交渉も進み、立ち上げとともに量産に入る計画だ。

「ここまでこられたのは、本社や協力工場、そして中国、韓国の関係者のみなさんのサポートのおかげです。2020年は苦しい年となりましたが、2021年はきっと明るい

明るい未来を信じて

までスリム化。本来ベトナムでは、国の法律で定められた事由以外での従業員の解雇は認められていないが、深刻なコロナ不況にあることを説明すると、スタッフたちはみな理解を示してくれた。

会社にとっては幸いなことに、6月以降は徐々に業績が戻りつつあり、7月には最大28コンテナを出荷。忙しい毎日が、ふたたび始まるようにしている。



未来が待っていると信じています。より効率的で自立した工場を目指し、コツコツと努力していくつもりです」。

コロナ禍の影響はまだまだ安心できる段階にはないが、政府の対応が功を奏し、ベトナム国内の感染者数は比較的落ち着いてきた状態を保っている。一方で、ベトナムから日本への航空便は運休が継続中であり、日本への一時帰国はできそうもない。いずれ帰国が叶った際には、なじみの店で好きなラーメンを食べることを楽しみにしているという。

可知はこれからも周囲の協力に感謝を忘れず、ベトナム工場の発展のために力を尽くしていくだろう。



仲間たちの安全のために

日本の四季に例えるならば、夏夏冬というイメージがぴたりとあてはまる。最低気温が7度前後となる冬の到来が日本人には待ち遠しい。さらに、公衆トイレの少なさもベトナムと日本との違いの一つである。

「トイレが見つかるまでに2〜3時間かかることもあります。出かける時は十分な注意が必要です」。

可知も出張をした際、移動中に公衆トイレが見つからず、当惑した経験があるという。

最も衝撃を受けたのは交通事情だ。日本のテレビにもよく映し出される光景だが、通勤ラッシュ時にはバイクと車がひしめき合い、非常に危険な状態になる。車優先社会のベトナムでは、轢かれぬよう気をつけるのは歩行者の責任。特に大型バス、大型トラックの暴走には注意しなければならぬ。鳴り響くクラクションやエアホーンの大きな音は「自分はここにいるぞ」という合図、あるいは「これから自分が通るぞ」という意思表示なのだ。しかしどんなに注意していても信号無視は日常茶飯事で、隙があればすぐに別の車

コロナ禍の中で

が突っ込んでくるため、事故も多発している。

ベトナム工場のスタッフもほとんどがバイク通勤だが、安全に対する意識は低く、ヘルメットを被らない人も多い。実際、これまで交通事故の被害にあったスタッフも数名いる。こうした事故をなくすため、ベトナム工場では日本人駐在員が毎朝工場の門に立ち、挨拶と安全指導をおこなっている。

「この活動は1年半以上、毎日続いています。根底にあるのは、ともに働く仲間たちの安全を守りたいという気持ちです。少しでも安全意識の教育ができればと思っています」。

稼働を開始して以来、試行錯誤しながらベトナム工場は製品量産を維持してきた。2020年3月には生産量がピークに到達し、さらなる発展が期待されていた。その矢先に発生したのが、新型コロナウイルスの世界的大流行である。誰もが思いもよらなかった事態だった。春先には、ヨーロッパでの感染が拡大した影響を受けて注文が激減。それからまもなく日本国内の取引先も休業が相次



▲会社外観

企業情報

- ◆ 創 立 年：1954年6月
- ◆ 年 商：213億円

※2020年3月時点

可知さんへの メッセージ

今回は4名の方に、可知さんの
第一印象やエピソードを
教えていただきました！

■第一印象

今でもそうですが、何でもできる方だと思いました。

■可知さんとのエピソード

可知さんが中心となり行った、シート発泡機の発泡機2台の移設工事。とても大変でした。

■どのような存在？

社長にまで上り詰めたすごい方。雲の上の存在です！

■尊敬しているところ

判断力や行動力、お金の使い方などいろいろあります。

■可知さんへのメッセージ

このような世の中ですので、体調には十分気をつけてください。また会える日を楽しみにしています！

開発技術部 工機課
主任

いたずら ともりの
板頭 知範さん



開発技術部
次長
おぐら ひでみ
小倉 英美さん

中物ベトナム 製造3
部長

ふかざわ ひでひこ
深澤 秀彦さん



中物ベトナム 製造2
部長
いちわざ たかし
市脇 誉士さん

■第一印象

知識が豊富で厳しそうな印象でした。現在はその印象に加え、メリハリがある面倒見の良い方です。

■可知さんとのエピソード

ベトナムでの飲み会で、程よく酔っ払い千鳥足でアパートに帰ったことがありました。

■どのような存在？

仕事だけでなくベトナムの生活に関して相談すると、アドバイスをしてくれる良き上司です！

■尊敬しているところ

何事にも妥協せず、追窮する姿勢や部下に対して面倒見が良く優しく対応してくれるところです。

■可知さんへのメッセージ

可知社長と一緒に仕事ができ光栄です。これから私もスキルアップをし、可知社長と中物ベトナムのために頑張ります！

■第一印象

30年の付き合いですが、そのときから変わらず明るくフレンドリーで面倒見の良い方です。

■可知さんとのエピソード

私の結婚式之余興で歌を披露していただいたことで、とても上手く会場は大喝采でした。

■どのような存在？

責任感が強く、どのようなことでも相談や応援をしてくださる頼もしい方です。

■尊敬しているところ

人をまとめ目標に向けた行動、実践力はズバ抜けています。私にはできません。

■可知さんへのメッセージ

遠い地で苦勞も多いと思いますが、身体には気をつけて頑張ってください。こちらでサポートできることはお手伝いします。

ありがとうリレー

「ありがとう」の言葉は、皆を笑顔にする魔法の言葉。

この場を借りて、皆さんの「ありがとう」をリレー形式で伝えてまいります！

From → To

小川 伸也さん

配管材事業部

製造1課 シート発泡班

To

片田 伸介さん

タイ出向

5年ほど前、片田さんはシート発泡の課長で、私はマテハンとして現場で働いていました。シート発泡工場の設備は、連続生産しなければ歩留まりロスが発生するため急に止めることができず、オペレーターの休憩中は私が入って生産を止めないようにしています。ある日、忙しくて手が回らず困っていたときに、片田課長がフォローに入ってくださって助けていただきました。私も片田課長を見習って現場の状況を把握し、仕事環境を良くしていきたいと思っています。

From → To

原 寿美さん

化成品事業部

製造課 加工第二班

To

杉山 博俊さん

化成品事業部

生産管理課

私が化成品に携るようになった12年ほど前、杉山さんが他社製品を自社便で納品してくださっていました。あるとき、お客様から「製品が届いていないです」とお問い合わせがあり、「納品したはずですよ」と伝えると、その様子を見た杉山さんが納品されていないままだった製品を探し出し、無事に納めていただきました。非常に嬉しかったです。

From → To

松田 正弘さん

配管材事業部

製造1課 押出し発泡班

To

嶋崎 和孝さん

配管材事業部 製造1課

押出し発泡班 班長

嶋崎さんは、班長になる前の現場作業者だったころ、チームリーダーとして1から10まで仕事を教えてくださった素敵な先輩です。入社当初はたくさんご迷惑をおかけしてしまいました。中でも、私の確認ミスにより不良が発生したときは、嫌な顔をせず一緒に検品作業を手伝っていただきました。そんな私も今はチームリーダーを任されています。当時の嶋崎さんのような心温かいチームリーダーになることを目標に、後輩を育てていきたいと思っています。ここまで成長させていただき本当にありがとうございます。

From → To

西尾 純人さん

化成品 営業課

To

大野 泰佑さん

品証部 主任

入社以来一緒に仕事をする機会が多く、日頃から仕事に対して妥協を許さない大野さんの姿勢から、多くのことを学ばせていただきました。中央物産タイ工場から日本への製品供給が加速している近年、大野さんの日頃の品質活動により、営業として多くのことを助けられていると実感しました。本当にありがとうございます。大野さんの活動は多くのお客様の信頼を獲得しており、非常に心強い存在です。いつの日か、新商品の立ち上げなどで、お互いに苦勞した日々の思い出話ができることを楽しみにしております。